

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援あんだんて（指宿）				公表日	2025年2月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		法令で定められたスペースではあるが、活動によっては狭く感じることもある為、設備配置を工夫し環境を整えている。	活動の内容に応じて、指導訓練室の設備配置を変える等、工夫しながら安全なスペースを確保していきたい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		基準内ではあるが、日によっては対応が厳しい場合もあるため、活動の内容や利用者の特性に応じて、職員配置を行っている。	より良い支援のための職員配置を心掛ける。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	子どもにとってわかりやすく、また興味や自主性をもって活動できる空間を作る。	安心して安全に過ごせるように、危険と感ずる場所に分かりやすい表記をしたり、職員が介助を行ったりしていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		触れる場所や玩具など、定期的に消毒を行い、衛生管理に配慮している。	活動や人数に合わせて、部屋の配置を変え、安全に活動できるようにしていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		個々の状態を日々把握し、職員間で情報共有に努めている。	子どもの特性、興味に応じ、スペースの確保に努めたい。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	5	1	職員会議や、日ごろの振り返りの時間を活用し、情報共有を図るようにしている。	業務連絡ノートや、チャットを利用して効果的な業務改善を進める。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	アンケートや、口頭でいただいた意見は、職員間で共有している。	保護者の意向や意見を尊重し、より良い支援に繋げられるように改善に努めていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	職員会議や、日ごろの振り返りの時間を活用し、情報共有や意見交換を行っている。	職員の意見交換の機会を活用し、業務改善につなげていきたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		人選を含め検討中である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	外部研修に積極的に参加し、職員会議等で内容を共有できるようにしている。	研修の情報を収集し、興味のある研修や、必要な知識技術の向上の為の研修に参加できるよう、時間の確保をしていく。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		事業所の支援プログラムを作成し、公開している。	ホームページ上で公開している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		担当者会議で得た情報や、サービス等利用計画書、アセスメント、モニタリングを反映させながら作成を行っている。	今後も継続して取り組む。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間で情報共有を図り、共通理解の下、計画作成及び支援を行っている。	今後も継続して取り組む。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員間で情報共有を図り、共通理解の下、計画作成及び支援を行っている。	今後も継続して取り組む。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3		職員共有を図っていく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		子どもの状況や課題、保護者の意向等を踏まえ、ガイドラインの項目ごとに支援内容を設定している。	今後も継続して取り組んでいく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		毎月の活動計画は、職員間で案を出し合い決定している。	今後も継続して取り組んでいく。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節感を感じられるような活動や行事を取り入れるなど、利用者の日々変化する状況を考え、偏りがないように工夫をしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		一人ひとりの発達状況や、特性に応じて、活動の内容を考えている。	今後も継続して取り組んでいく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		活動中の、気付いた点や反省すべき点の振り返りを行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		活動中の、気付いた点や反省すべき点の振り返りを行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		ケース記録に細かく記入し、支援の改善に繋がられるようにしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	毎月モニタリングを行い、利用者の状態などの確認を行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者や、利用児の担当職員が参加している。	今後も継続して取り組んでいく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1		今後も継続して取り組んでいく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		関係機関との連携や相互理解を深めながら支援を行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		学校見学や移行支援シートを作成し、情報提供を行うようにしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	研修に参加する等、連携を図っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		活動としての交流の機会は設けていないが、今後検討していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳やインスタグラムで伝えている。必要に応じて電話対応も行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		家庭での対応に活かしていただけるよう、保護者向けのセミナー等を計画したい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に、利用契約書や重要事項説明書を通して詳しく説明を行っている。	利用者目線に立ち、丁寧にわかりやすい説明を心掛ける。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		面談や丁寧な聞き取りなどを行っている。	今後も継続して取り組んでいく。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		保護者へ詳しく分かりやすく説明を行い、同意を得ている。	今後も継続して取り組んでいく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		親子療育の際や相談があった時等に、対応の仕方などの実践を見ていただいたり、一緒に支援の方法を検討したりしている。	保護者の思いや悩みに寄り添い、相談しやすい雰囲気作りに努める。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2	親子での活動を開催する際は、きょうだいの参加も受け入れている。	今後も継続して取り組んでいく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		マニュアルについては、契約時に説明をし、事業所内に掲示している。また、意見箱を設置している。	相談や申し入れについては、迅速な対応を心掛ける。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		Instagramを積極的に活用している。	今後も、連絡帳も活用しながら情報の共有を図っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時に個人情報同意書を通して説明を行い、同意を得たうえで、取り扱いには注意している。	今後も継続して取り組んでいく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		見通しが持てるように絵カードを掲示するなど配慮をしている。	今後も継続して取り組んでいく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		今後、出来ることを検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	保護者にも避難訓練に参加していただくなど、訓練を実施している。マニュアルは掲示している。	今後も継続して取り組んでいく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定している。	今後も継続して取り組み、必要に応じて見直していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		事前に聞き取りを行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		現在、当該者無し。	対象児がいる場合、職員間で共通認識を持ち、注意を払いながら対応する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を策定している。	今後も研修や訓練を定期的に行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	安全計画の開示を行っている。	今後も継続して取り組んでいく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット報告書を作成し、大きなけがに繋がらないように、職員間で共有している。	今後も継続して取り組んでいく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止について、研修冊子を基に勉強会を行い、共通認識を持つようにしている。	事例発生があった際には、同じことが起きないように職員間で協議し安全対策を図る。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、該当する対象児はいない。	身体拘束の可能性のある受け入れがあった場合、十分な説明と同意を得て、支援計画書に記載することとする。	